



生徒の視線の高さでコーチング

### ● 「P.L.T.Follow-up (個別課題学習)」の反響

本誌では、「P.L.T.Follow-up」について何度か紹介してきたわけですが、皆様からの想像以上の反響に驚くことがあります。「その生徒の弱いところを見つけて補強する」という当たり前のことをキチンとやっているだけで（確かに手間がかかりますが）、何か特別のことをしているという意識はないからです。

また、この学習システムで私たち教員が重視しているのは、生徒たちの「自己管理 (Self-management)」の力です。自分の意思で取り組み、工夫し改善していくことが、生きることへの自信にもつながるからです。同時に、芸術・情操面の指導にも力を入れ、体験型学習や考える力の練成も加味して、「卒業生は本当に問題解決能力が高い」といってもらえる伝統を育てていきたいのです。

広尾学園では、派手なパフォーマンスや目に見える成果といったことよりも、「基本に忠実に」「当たり前のことがキチンとできること」を大事にしてきました。その伝統に間違いがないことは、社会の各領域で活躍している卒業生が証明してくれていますし、女子校時代から「うちの子をコッソリ入学させてほしい」といって連れてこられる男子が、毎年10数名いたことから判ります。そして、この基本に忠実であることこそが、結局は「世界に通用する人材育成」につながると信じています。

#### 小山 和智

おやま かずとも

広尾学園中学校高等学校 校長補佐 (国際担当)  
(前、順心女子学園中学・高校)



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

## 英語補習校だより (10)

### カテゴリーに分ける

英語補習校の指導では、分析力と説明能力がとくに重視されていることは、既にお分かりいただけたかと思います。なかでも「分析する (analyze)」は、文字通り“分ける”作業であることを、子供たちに執拗に体験させています。

たとえば、いろいろな動物の絵を与えておいて、子供たちに「自分の分け方」を発表させるとします。「2本足・4本足・多足・足がない」で分ける子もいれば、「翼がある・ない」で分ける子もいます。「飛べる・飛べない」「卵を産む・生まない」など、いろいろなわけ方があってよいわけですが、大事なのは、その子が「どういう基準で分けたか」を説明できることなのです。

これが交通標識となると、子供たちは分類作業を進めるうちに、標識が一定の法則性で作られていることに気づき始めます。分けた基準から抽出されてくる法則性に気づいたとき、子供たちはその“発見”に興奮します。この達成感が、分析力の養成の原動力になるのです。

日本の大人は直ぐに“正解”を教えてしまい易いのですが、変化の激しいこれからの世界で、それがいつまでも“正しい答え”である保証はありません。まして地球環境、エイズ/HIV、南北問題、宗教対立など未解決の問題が山積しているのですから、将来を託す子供たちの問題解決能力を伸ばしていくことは必須事項といえます。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

広尾学園中学校高等学校  
(前、順心女子学園中学校高等学校)  
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14  
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192  
[www.hiroogakuen.ed.jp](http://www.hiroogakuen.ed.jp)



4月から新しくなった広尾学園。新学年の多忙な時期も一息ついて落ち着いた様子です。しかし、生徒も学校も、勉強に、活動に、休みはありません。そんな小山先生からの報告です。

ジュニアエイトの代表の一人、青山さんは昨年秋のロサンゼルスでの海外入試に合格して、編入した高校生です。実は、1年以上前から私自身が帰国・進学などの相談を受けてきました。先日、彼女に東京で会う機会がありましたので、学校生活について聞いてみました。都内の電車での移動もまだ不安な彼女ですが、「私に合った学校」なのでのびのびと学校生活をエンジョイしている。その気持ちの余裕が、今度の日本代表としてのドイツでの国際会議出席に繋がった。そして、ドイツで新しい友達が出来、また世界が広がったと、語ってくれました。